

NEWSLETTER No.4

2012年1月発行

目次

比較民俗研究会の報告（111回～113回）	（1～4）
『比較民俗研究 26号』の発行	（4）

比較民俗研究会の報告（111回～112回）

2011年後半の比較民俗研究会は、「仙人の会」との合同開催（112回）、「植民地と学知研究会」との同日連続開催（113回）などが行なわれ、内容の豊富な研究会となりました。以下、報告いたします。

第111回（2011年11月18日）

樊秀麗（首都師範大学教育学院）

題目「葬儀と人間形成—中国大涼山彝族の葬儀を中心として」

葬儀は一般的に、死者のための儀礼であり、人生の中で最後の通過儀礼であると考えられている。葬儀は肉体を離れた靈魂を扱うという特徴を持ち、各民族の靈魂観や来世観を色濃く反映するものでもある。この儀礼は死者を対象とするものではあるが、しかし生者とも無関係ではない。大涼山彝族の人々は、村人が亡くなるとたとえそれが誰であっても、村の構成員全員がその葬儀に参加しなければならない。彼らにとって一連の葬儀は、①生と死の自然性、②死に対する楽観主義的な態度、③生者と死者が相互依存の関係にあること、④祖界が実現可能なユートピアであることなどを伝える役割をもつほか、生者が積極的に人生と直面できるように励ましてやる役割をもっている。彝族の人々は、幼い頃から身近な人の葬儀に参加することで、死を直視し、受け入れることにより實に大切に豊かな事柄を学んでいるのだという。樊氏は、彝族たちの死との向き合い方から、私たちも学ぶことが多いのではないかと指摘する。（報告者：藤川美代子）

第112回（2011年11月19日）

吉元奈々子（首都大学東京大学院人文科学研究科 博士前期課程）

題目「ネパールのシャーマニズムにおける翻訳可能性に関する一試論」

20世紀以降、学術用語として定着し、人類学における古典的テーマの一つであるシャーマニズムは、しかし特に1980年代以降、再考を迫られる

こととなった。すなわち、シャーマニズム概念によって世界各地の類似の宗教職能者を一般化の俎上に上げることに對して批判が集中したのである。それ以降、シャーマニズム研究においては、より現地の文脈に埋め込まれた形で記述する個別化の方向へと向かうこととなった。本発表において発表者は、人類学におけるシャーマニズム研究の系譜と争点を概観し、大文字・単数形 Shamanism から小文字・複数形 shamanisms への方針転換から整理を試みている。さらに、ネパールのシャーマニズムの事例を取り上げ、エティックな学術用語において、シャマンという翻訳可能なローカルタームは、エミックな視線からみると翻訳可能性を持っているかについて考察している。(報告者：白莉莉)

長沼さやか（日本学術振興会特別研究員）

題目「珠江デルタ沙田村落の焼衣節—非宗族村落における祭祀組織についての—考察—」

研究の対象は、2010年に出版された氏の著書『広東の水上居民』でも中心的な部分を占めている、広東省珠江デルタ下流域の沙田地域で「水上人」と呼ばれる水上居民の人々である。彼らは人民共和国成立後に、沙田地域に定住を開始しているが、現在まで長らくの間、宗族組織を発達させておらず、祠堂や廟をもたない。彼らは祖先や神々は各家庭で祭祀してきたことが、定住を基礎としてきた周辺の宗族村落の人々との大きな差異である。

沙田地域に位置する水上人を中心としたM村では、毎年旧暦7月14日になると村落成員共同で「焼衣」と呼ばれる死者供養の儀礼を行っている。水上人たちの焼衣の儀礼は、周辺の宗族村落におけるそれと細かな点で異なっており、そこからは両者の間にあるエスニック・バウンダリーを看取できるという。また、M村共同で行われるこの儀礼からは、鬼の災いを回避するという本来の目的に加え、個人や村の繁栄祈願という目的、そして村落内の人々の結びつきを確認するという大きな目的を導き出すことが可能である。さらに、M村の焼衣儀礼には政府幹部も非公式ながら積極的に参加しており、村全体の繁栄を望むという点では村人と政府の思惑が完全に一致していると見ることができる。現時点では、焼衣の儀礼は「個人一村」という構図によって支えられるのみだが、M村では宗族新興の兆しも見られ、こうした行事がゆくゆくは個人から宗族主体の活動へとシフトしていく可能性も考えられるという。(報告者：藤川美代子)

金泰順（日本常民文化研究所特別研究員）

題目「クツの民族性—韓国のクツを見る—一視覚—」

クッは巫堂という霊媒者による神儀礼である。降神・娛神・送神の過程を通じて神に豊穡を願うクッもあるが、個人の幸せを求めるためにも行なわれる。社会の底辺層のかわいそうな人々の霊魂を慰めるためのクッもある。クッは現在の状態を変化させる力を持っていると氏はいう。

1970年代、1980年代は韓国において激動の時代であった。60年代からの軍事独裁政権は約30年間続いた。70年代、80年代の「民衆芸術家」と運動権学生は道路・広場・野外で巫堂なしの「クッ」を行なった。既成劇団も「民衆劇団」という新しいグループを結成して劇場で「クッ」を行なった。演劇の「クッ」で霊魂を慰めた。彼らが求めたのは暗い政治の現実から明るい社会への変化であったという。それを得るために「クッ」という手段を動員したという。なぜならば「クッ」は動きであるからだという。（報告者：古谷野洋子）

第113回（2011年12月24日）

前嵩西一馬（早稲田大学琉球・沖縄研究所）

題目「親族呼称の夢の翻訳を語る、癒着する多重の声：沖縄学、ポストオリエンタリズム、遠隔知」

言葉を、ただ単にひとつの意味を伝えるひとつの音の連なりとして捉えるのではなく、ジェンダーや階級、文化、地域偏差といった諸係数に重層的に操作される「夢」のようなものとして捉えることで、我々はどのような人類学的想像力を手に入れることができるのか。

本発表では、研究会の参加者から二人の協力を得て、発表者を含めた3人による朗読劇（「台本」としてのレジュメを配布）という形を取りながら、沖縄に関するある現代演劇の舞台上で何度も発せられた「親族呼称」をめぐる固有の経験を、考察の対象とした。

地政学的条件に基づいた「現在」を常に裏書きする制度としての学問の正当性を抱え持つ「学知」--たとえば沖縄学の領域を画定する「最終審級」としての歴史学--に決して回収されることのないパロキアルな口語（沖縄口）のリアリティを、脱植民地主義や native anthropology の視点、「社会劇」を扱う人類学の技法を用いながら、翻訳や表象を巡る問題として浮き上がらせることを試みた。（報告者：前嵩西一馬）

笠原政治（横浜国立大学名誉教授）

題目「台湾原住民研究の過去・現在・未来」

台湾統治50年間の日本人による台湾の原住民をめぐる総文献数は約

2,600 である。これら日本人研究者による台湾の原住民をめぐる学術的知識や情報が台湾に還流されるという現象がみられる。本発表は台湾研究 30 余年の氏が台湾の原住民族をめぐるこのような学術的状況について、研究の過去・現在・未来という視程から解説したものである。

これらの研究の還流現象は、1980 年代の国民党独裁体制崩壊後に権利の回復を目指した原住民族運動が起こり、原住民族研究が活性化してきたことによる。日本統治時代の研究・記録が注目され、当時に関連する翻訳・出版・資料の発掘、シンポジウムが相次いで行なわれてきた。

しかし、どのように「還流するのか」（日本人の研究が台湾でどのように読まれ、活用されるのか）、「台湾と日本を越えた学術的な広がりをもどのように確保するのか」という（二重の言葉の壁）という問いが残ると氏は指摘している。（報告者：古谷野洋子）

『比較民俗研究 26 号』の発行

『比較民俗研究』26 号が発刊されました。今号の特集は「シャーマニズム研究の新視角」と「ヒト・モノ・カネー現代市場民俗の一側面」の二本立てとなっています。以下に目次を紹介します。

比較民俗研究第 26 号目次

巻頭言	見え隠れするシャーマンたちに出会おうとする	クネヒト・ペトロ
論文		
	民俗社会における空間分類と自然観	宇田川飛鳥
	血食に関する民俗学的考察	李徳雨
	「鎮魂」語一「鎮魂」語疑義考 その 2	坂本要
特集 1：シャーマニズム研究の新視角		
	内モンゴル・ホルチン地方の霊魂観と悪霊について	サランゴア
	演劇詩に見た韓国の演戯	尹光鳳
特集 2：ヒト・モノ・カネー現代市場民俗の一側面		
	サンパウロ市における沖縄系エスニックコミュニティの成立と展開過程の経済的側面—自営業戦術の累積的連鎖を視点として—	森幸一
	生活・政治・商品：文化・社会生態としてみる草の根の相声	岳永逸
	現金の生々しさと”ふさわしくない”取引	塚原伸治
研究・フィールドノート		
	柳田国男の「主体性」の学問	
	—比較民俗研究の新しい地平を拓くために—	フレデリック・ルシーニュ
“龍の目”—資料と通信—		
	“満州郷土玩具”（旧満州経由で収集された作品）の問題点	伊藤三郎
	アチックの台湾パイワン族調査の地を訪ねて	小熊誠
	北京で『口承資料のデータ処理に関する国際会議』開催	何彬
書評		
	川田順造『日本を問い直す—人類学者の視座』	曹起虎
	山田勅之『雲南ナシ族政権の歴史—中華とチベットの狭間で』	高倉健一

編集・発行 比較民俗研究会幹事会（神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科佐野研究室）
連絡先 E-mail: hikakuminzoku@hotmail.co.jp
HP アドレス <http://hikakuminzoku.web.fc2.com/index.html>